

歴史探訪

クラブ! 其の126

History Inquiry Club

文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

まぼろしの伊良湖自然科学博物館

渥美半島の観光が最も活気づいていたころの昭和45年7月16日。伊良湖畔に伊良湖港湾観光センターが開館しました。盛んになった観光や、海の玄関口としての伊良湖の機能を高めるため、公共性の高さから愛知県、渥美町、名古屋鉄道の官民合同で造られたものです。この年の3月から9月には大阪万博（日本万国博覧会）が開かれていて、この会期中に開館を合わせたといえます。渥美半島だけでなく、日本国中が活気



●伊良湖自然科学博物館の様子

に溢れていたときです。施設は、二階建て鉄筋コンクリート造りで、中には海陸交通ターミナル事務所、待合室、食堂、売店がありました。二階には、「伊良湖ビジターセンター」（伊良湖自然科学博物館）があり、伊良湖を訪れる人たちに三河湾国定公園の自然、産業、文化、さらに伊勢湾の未来像を解説する施設として、位置づけられていました。ここまでなら、観光施設に付属する普通の博物館ですが、この博物館はその内容がすごい！渥美半島に生きた人々の歴史・民俗、そしてそれを育んだ自然、さらに渥美半島の産業、交通にいたるまで全てを網羅した内容でした。豊富な展示資料と、

十分に調べられた解説、また模型によって質の高い展示となっていました。ここにくれば、渥美半島の全てがわかったといっても言い過ぎではないでしょう。

このような広い視野でひとつの地域を紹介したスケールの大きな博物館は東海地方にはありませんでしたし、おそらく今でもないでしょう。地道な調査、研究活動も続けられ、夏休みなどには展覧会や講座が催されました。縄文、弥生、古墳、東大寺瓦、船の歴史などの展覧会には、観光客ばかりでなく地域の人も多く訪れました。その調査研究、展示の成果を掲載した『伊良湖』は、ほぼ毎年刊行されていました。また、敷地内には発掘された鬼墮2号墳（若見町）の移設も行われ、現在の史跡の整備に先行する画期的な事業でした。

この博物館の素晴らしさは、過去と現在、そして未来が展示されていたことです。ここに行けば、

自分が住むふるさとのワクワク感やドキドキ感、夢を体感でき、観光客はこの地域の素晴らしさに憧れを抱いたに違いありません。展示は今の博物館施設に比べると洗練されていませんでしたが、そんなことを一笑できる資料の質、そして携わった人たちの熱意がこの博物館の持つ力だったといえます。

平成6年、これらの施設は新しく建て替えられ「伊良湖クリスタルポルト」となりました。平成6年に幕を閉じた伊良湖自然科学博物館ですが、もう一度、渥美半島の未来を担う子どもたちに、あの個性豊かな博物館を見せてあげたいと願うのは私だけでしょうか。

（増山）

今月の「表紙」

▼秋の訪れとともに、海辺をオレンジ色に彩るハマカンゾウ。日出園地は、幕末に異国船対策のため、大垣新田藩が砲台を設置した場所、現在でもその名残を見ることが出来ます。この砲台跡から、がけ下を見下ろせば、岩場から生えるハマカンゾウの群生が。私がいつかカメラに収めたい風景です。(○)

【表紙の写真】日出園地のハマカンゾウ